

JAたまな管内で令和3年産イチゴの定植がスタート

JAたまなイチゴ部会は199戸の農家が、50.4haの面積で品種「ゆうべに」(7割:県内最大の産地)及び「恋みのり」を中心に栽培を行っています。本年度のイチゴの定植は9月18日から始まり、収穫は11月中旬から本格的に開始される予定です。

イチゴ栽培において、育苗期はその後の花芽分化や収量を左右する重要な時期ですが、本年は梅雨期の降水量が平年の20%、その後、8月13日から1週間の大雨による冷夏(平均気温が25℃で、9月中旬の気温)のため、一部不時出蕾や日照不足による徒長苗が見られました。「ゆうべに」は置肥2回施用を基本に行いますが、2回目が大雨の時期と重なったため、葉色を落とさない管理を徹底しました。また、9月中旬の定植前には台風14号接近による大雨で定植遅れも心配されましたが、健良な苗をほぼ予定どおり定植できました。

イチゴは、長期間の収穫のため、過度に成り疲れをさせない栽培管理が収量アップに重要です。このため、イチゴ部会では、今後も、現地検討会や講習会を実施しながら、令和3年産も平均反収5トン以上を目指した栽培を行います。

当支部では、農業普及・振興課や農業革新支援センターと連携して、情報提供や技術指導を通じ、イチゴの産地の更なる発展のため技術の向上に取り組んでいきます。



定植直後のイチゴ苗 (9月20日)



花芽検鏡の様子